

技術革新、協業探る

ヤマハは二十八日、浜松市中区中沢町の本社構内に整備を進めていた研究開発拠点「イノベーション・イノベーション」の完成式典を現地で開催した。製品開発の歴史を伝える「イノベーション・イノベーション」や、音に関する最新

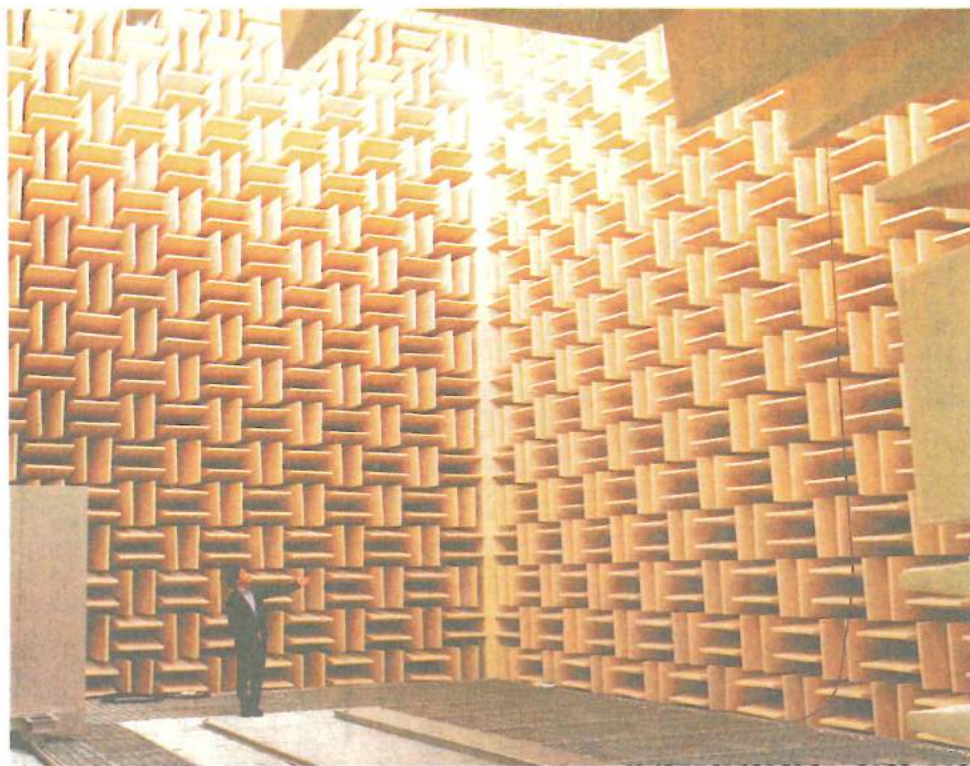
ヤマハ

の実験設備などを備えた新たな研究開発棟を建設。これまで分散していた技術者を一堂に集めて交流を促し、技術革新（イノベーション）や業務の効率化を目指す。

（久下悠一郎）＝①面参照



完成したヤマハの新研究・開発棟＝いずれも浜松市中区中沢町で



国内最大級の無響室

オフィス 開放的な空間に



技術者が気軽に交流できるように開放的に作られたオフィス

イノベーションセンターは、新研究・開発棟と南側にある既存の二棟を合わせた総称。新棟は鉄骨七階建て延べ三万五千平方メートル、約百億円かけて整備した。

音の反響をなくし、楽器やスピーカーが発する音だけを測定する無響室は、床下からの高さが十二層もあり、ヤマハによると国内最大級。コンサートホールの

椅子などが音を吸収する割合を調べる残響室や、大小四つの録音ブースなどを備えたスタジオもある。

新棟には、これまで本社構内や磐田市の拠点に製品分野ごとに点在していた研究・開発組織の約千五百人を集め、センター全体で総勢二千五百人規模の技術者たちを収容する。

オフィス空間は「人の接点が生まれるように、できるだけオープンにした」と担当者。仕切りの壁を極力なくして机や椅子の配置を柔軟に変えられるようにしたり、部屋をガラス張りにしたりした。

食堂には、テラスやあずまやを設け、テーブルと椅子も備えるなど、取引先をはじめ社外から訪れる人と打ち合わせや懇談をしやすい環境づくりも工夫した。

式典には浜松商工会議所の大須賀正孝会頭や塩谷立衆院議員、浜松市や地元企業の関係者ら五十余人が出席。ヤマハの中田卓也社長はあいさつで「社内外の共創が進み、刺激し合つのにふさわしい場所。新しいものを生みだし、世界の人たちに新しい世界を提供したい」と述べた。

研究・開発の新拠点 人材集め交流促進



中田卓也社長 「次の時代に向けた新製品を」

ヤマハの中田卓也社長は二十八日、イノベーション・センターの完成式典後、報道陣の取材に答えた。主なやりとりは次の通り。

―センターの意義は。

「ヤマハの強みは、いろいろ

ろな技術を持っていること。細切れで活用するのではなく、融合することで新しいものができる。いろいろな種類の技術者が集まることで、自然と湧き上がることを期待し

―センターを拠点とした他社との協業については。

「広く協業していきたい。いろいろな技術やアイデアを持った方々と、次の時代に向けた新しい製品・サービスを生み出したい」

―イノベーション・センターの展示の狙いは。

「浜松の地で創業し、今も」

式典で新拠点の狙いを語る

るヤマハの中田卓也社長

てい

「浜松の地で創業し、今も」

「い」

ヤマハ130年 開発の歩み

浜松本社に展示施設

ヤマハの製品開発の歴史を紹介する展示施設「イノベーションロード」が浜松市中区中沢町の同社本社に完成し二十八日、報道関係者らに公開された。草創期のオルガンやピアノから最新の電子楽器まで百二十年余りに及ぶものづくりの歩みをたどることができる。一般公開は七月三日から。▶関連⑥面

遠州鉄道八幡駅の北西に完成した新研究・開発棟の一階に整備し、広さは約千五百平方メートル。コンサート用のグランドピアノをはじめ、ヤマハが手掛けてきた管・弦・打楽器や音響機器など約八百点を展示する。「ヒストリーウォーク」と名付け



⑥オルガンやピアノをはじめ往年の製品でヤマハの歴史を紹介する「イノベーションロード」 ⑦音と映像で臨場感あふれる体験ができるシアター=いずれも28日、浜松市中区中沢町で（袴田貴資撮影）

7月3日から一般公開

た長さ約五十メートルの壁面には、一八八七（明治二十）年の創業当時のオルガンを筆頭に、航空機のプロペラ、オートバイ、スポーツ用品といった往年の製品も飾る。百十四基のスピーカーによる立体的な音響と映像の演出が楽しめるシアターや、ピアノやドラムによる自動演奏のコーナーもある。

興村暢朗館長（ま）は「創業以来の挑戦の道のりを、見て感じてほしい。特に子供たちに音楽や楽器の楽しさを伝えたい」と話した。

入場無料で予約制。開館時間は午前九時半～午後五時。日・月曜と祝日、年末年始などは休館。六月十九日に同社ホームページ内のコーポレートサイトで予約方法を告知し、受け付けを始める。（久下悠一郎）

